

基本目標1 観光資源魅力の向上		実施スケジュール					内部評価						
基本施策		単位施策	具体的な方策	R5	R6	R7	R8	R9	進捗	内容(取組状況・課題)	コメント		
1	観光資源の機能充実と拠点化	観光施設及び資源のデータベース化	栃木市観光資源データベース「蔵ナビ!」の管理運営						着手	令和6年度に「とちぎ歌麿交流館」などを新たに登録した。令和7年度にイベント情報、お役立ち情報、アクセスのページを最新情報へ更新を行った。また、相良酒造を新規登録し、飯沼銘醸のページに酒蔵見学の紹介文を追加した。今後も引き続き情報更新と共に、新規登録も行なっていく。	・蔵ナビのホームページを見ると、お知らせの更新が2024年3月8日で止まっています。新規登録の際などには迅速にHPなどで情報発信してほしいです。 ・新規登録等について、定期的に公募を実施して広く市民等の要望を受ける等の仕組みを構築してほしいです。		
			地域資源の観光資源としての活用							一部着手	令和6年度に蔵の街市民ギャラリーや道の駅にかたにて西方城跡のパネル展示や紹介動画の公開などの企画展を開催。「栃木県観光プロモーション協議会」において令和7年度に県内の城跡を紹介するパンフレットを作成し、栃木市は皆川城址及び西方城跡を掲載した。また、小規模ワイナリー特区を申請し、登録を目指している。市内の桜のクビアカツヤカメラミキリ対策の実施、枯れ木の伐採及び通行に支障のある枝の剪定を行った。かかしの里の蓮池の景観向上のための池の清掃を大平地域の実働組織であるわいわいテラスと協同で行った。地域予算を活用し、かかしの里の野外ステージの電源不足を補うためポータブル電源を購入した。	・西方城跡、皆川城址に加え、栃木城跡もパンフレットに入れてほしいです。 ・西方城跡のイベントは大きくやりたい。 ・城跡展示や県連携パンフの整備は素材として評価でき、商品造成の基盤強化につながる取組と存じます。桜保全や景観整備も来訪満足度向上に寄与しております。一方で、周遊ルートの明確化や体験コンテンツ化、受入体制の整備が不十分で、旅行商品化や送客拡大への即効性は限定的です。今後は造成可能な観光メニューの具体化を期待いたします。 ・国史跡に指定された西方城跡。PRの機運を一過性にせず、継続的に各種観光施策に取り組んでほしいです。 ・観光資源の維持管理等は磨き上げを行う以上に重要であり今後とも積極的に実施をお願いいたします。	
			観光資源の磨き上げ	食とスポーツによる地域活性化及び観光振興計画を核とした取組の実施						着手	令和7年度には、栃木シティのホーム戦にあわせ、横山郷土館・観光協会のSNSをフォローでガラポン抽選1回参加とし、景品には栃木市産のいちごを使用することで、併せて食のPRも実施した。また、食のPRとしては、東武鉄道(株)と沿線市町と協力した「Berry Happy Train」の運行、横山郷土館でのいちごやぶどうの試食会、スカイツリーアンテナショップや佐野アウトレットでの市内の地酒の試飲会、東京ソラマチにおいて市内の地酒と小江戸ブランドである芋焼酎こなら娘の試飲会。市内中心地のとちぎ江戸料理提供店をスポットに加えたスタンプラリーを実施した。今後も栃木シティのホーム戦と連携した観光PRや、試食や試飲を用いた食のPRを実施することで、市の認知度向上や誘客を促していく。	・東武鉄道と協力して北千住駅でぶどう販売のキャンペーンを行った。好評で早めに売り切れた。女子野球の大会でぶどうの試食キャンペーンを行った。 ・栃木シティのイベントは今後期待が大きい。 ・市と提携しているスポーツチームの選手とともに農産物の収穫体験ができるイベントを計画するのも相乗効果が期待できると思う。 ・栃木シティFCのJ2昇格に伴い、さらに知名度の高い選手が所属する可能性も高まります。地元のお店訪問や商品など積極的にPRしてもらうのは効果的だと思います。もし可能なら他地域から来訪したアウェイチームの選手にもいるいるとお試しいただくのも良いかもしれません。当社としても東武鉄道との連携で栃木シティをアイコンとした観光振興施策を展開できればと思います。 ・昨年4月に赴任しましたが、小江戸ブランドの取り組みが一部店舗で細々と続いている印象を受けます。地域おこしの一環で再び参加店舗の拡大を図ってはいかがでしょうか。また昨年始まった雪月花ブランドも同様の印象です。宇都宮のギョーザ、佐野のラーメン、鹿沼のシュウマイのような「栃木市といえばこれ!」とすぐに思い浮かぶグルメがほしいです。	
			観光拠点としての道の駅やアンテナショップ等の機能充実と活用	道の駅等の観光機能の充実化							一部着手	「コエド市場」では、特産品を活かしたコエドパンの開発・販売を行なっている。また、観光パンフレットの設置により、蔵の街周遊の拠点としての機能を向上させている。道の駅では、各種イベントのポスター掲示により周知を図っている。また、スカイツリーアンテナショップではインバウンドや都心の人向けに日本酒の試飲イベントを2回実施した。来年度以降も積極的にスカイツリーアンテナショップを活用し、市の魅力を周知していく。	・コエド市場での商品開発や拠点機能強化は観光素材として評価でき、誘客のきっかけづくりに寄与しております。スカイツリーでの試飲イベントも情報発信として有効です。一方で、現地への送客につながる導線設計や旅行商品化が不十分で、来訪増加への直接的効果は限定的と考えます。今後は販売運動施策の強化を期待いたします。 ・小江戸ブランドの定期的な見直し、外部への情報発信、アピールは継続的に必要。
2	観光資源の掘り起こし	市民参加による観光資源の発掘、魅力再構築	市民参加による観光資源の掘り起こし						一部着手	各地域のまちづくり実働組織による太平山南山麓の自然を体験できるSAKURAフェスやかかしとマルシェ等が開催されている。令和7年度には、藤岡地域のまちづくり実働組織にて新たに地元農産物等を販売するマルシェが開催された。今後、寺尾地区において農業体験やそば打ち体験ツアーを実施できるよう検討している。	・地域住民のイベント支援は続けてほしい。 ・各地域での情報発信と横軸展開が必要。		
		市民主体による観光資源を活用した事業展開	市民が観光事業に取り組みやすい環境の整備							着手	各地域の実働組織によるイベント(SAKURAフェス、かかしとマルシェ、どんと焼き等)の地域住民主体のイベント(とちぎ蚤の市、うづまの鯉のぼり、うづまの竹あかり等)の後援や施設使用料の減免、イベント運営についての助言などによる支援を行っている。	・各地の団体や住民に自分の住んでいる所の観光資源を掘り起こしてもらおう。 ・地域おこし協力隊が主導になって、マルシェの開催やパンフレットの作成等継続的な取組がうかがえる。地域に浸透して「自分たちのイベント」という意識づけができれば良いと思う。	
3	体験・交流型観光の促進	ニューツーリズムの掘り起こし	ニューツーリズム検討部会の設立						一部着手	令和6年度に市関係課及び市内ゴルフ場で「ゴルフを通じたまちづくり」に関する組織を立ち上げ、パンフレットの掲示や物産品の販売を検討する会議を開催している。今後、庁内において検討会議を開催予定。	・市民主体によるイベント等には、行政は協力する。 ・サステイナブル協奏プロジェクトで発案された取り組みが、栃木市観光協会との連携で進んでいると聞いております。ぜひ推進していただきたいと思っております。 ・県内一ゴルフ場が多い栃木市。県外から観光客を呼び込む魅力的なコンテンツだと思います。ゴルフを核に市内を周遊する観光ツアーなどを積極的に売り込むのは効果的かと思っております。		
			ニューツーリズムの推進	ニューツーリズム旅行商品の開発							着手	栃木市観光協会において、令和7年4月16日に旅行業資格登録が完了し、ヨシ焼き見学と市内散策及び和体験モニターツアーや産官学連携事業で開発した蔵の街見学と江戸料理を堪能するモニターツアーを実施した。また、民間事業者において、自身の施設を民泊施設として活用し、事業を体験できるプランを検討している。	・モニターツアーに大いに賛成。PRを強化し、パンフレットや物販は良いと思います。 ・栃木市、國學院大學観光まちづくり学部、東武鉄道、当社(東武トップツアーズ)での4者共同研究による持続可能な「観光まちづくり」における3か年の事業が終了し、蔵の利活用を中心とした様々な見地からの提言が生まれました。この研究提言をもとに当社としても旅行会社としての立場からさらに栃木市の観光振興に寄与する事業を展開できればと思います。 ・施設見学やフード関連のコンテンツは充実してきたと感じるが、体験型のワークショップなどがまだ少ない。モニターツアーの実施はとてよい。 ・ヨシ焼き見学&蔵の街大通り散策は、来年度も内容を検討して実施予定。更に、ヨシ焼き以外のガイドさんとまわる渡良瀬遊水地見学ツアーや農業体験などの実施も考えたい。
		滞时间在長の促進	ニューツーリズムイベントの開催								一部着手	イベント参加後に市内観光へ誘導するため、熱気球係留体験イベント(わたらせ熱気球day)や栃木市・渡良瀬パルーンレースを開催している。J2に昇格した栃木シティが参加する、百年構想リーグのホームゲームで、スポーツ課と連携して観光PRブースを設置することに加え、市内事業者や観光協会の物販ブースを設置することで、市内観光に誘導するための取組を実施した。	・サッカーJ2に参入は大きい事。今後多くの収容が見込める。イベントに期待。 ・サイクルイベントに力を注いだ時期があったが、サイクルロードの表示が整備された環境で、今一度継続的な催しの実施の検討はいかがか。 ・今後市場の急拡大が見込まれるeスポーツの推進などをぜひご検討いただきたいと思っております。栃木県庁が県下自治体のeスポーツの取り組みの支援と補助金を予算化しています。 ・熱気球の係留イベントは今年に入って毎月開催していることを知った。気球は冬場のみだと思っていたので、もっと周知をすれば注目度も上がるのではないかと。関東近辺で気球に乗れるのは、調べた限りだと渡良瀬遊水地だけなので、その独自性をもっとアピールしてもいい。栃木シティは注目度も高く、チームを通じて栃木市を知っていただく機会があると思うので、もっと積極的に連携を図るべき。
			滞时间在長のための事業者間意見交換会の開催								一部着手	ゴルフを通じたまちづくり担当者会議を開催しており、スループレー客を市内観光施設に誘導し滞时间在長に向けた仕組みづくりを検討する。令和8年度に民間企業と観光協会と連携し、ゴルフプレーの間に他の家族が自然アドベンチャー、工場見学を体験し、ファミリーで栃木市を満喫できるプランの実施を予定している。	・サステイナブル協奏プロジェクトで発案された取り組みが、栃木市観光協会との連携で進んでいると聞いております。ぜひ推進していただきたいと思っております。
4	イベント・まつりの活用	イベントによる観光活性化	観光施設での祭り関連イベントの開催							着手	太平山桜まつりやあじさいまつりでは、来場者に記念館の割引券を配布し、太平山の後に蔵の街に寄っていただくための取り組みを実施し、また、各地域の桜まつりでは、ポスターや市ホームページ、まつり会場と一緒にPRし、複数の会場を回っていただけるよう誘導した。	・記念館の割引券は好評です。 ・あじさい祭りや「かかしとマルシェ」におけるぶどう協議会との連携は好評だった。 ・定着してきているイベントほど、マンネリ化が否めない。伝統的なものは、文化的意味もあると思うが、賑わいを求めるものは、毎年特別感を出す工夫が必要。地域協力隊や高校生蔵部など新しい着眼点を募る事も持続性を持った特色を見出せるのでは。 ・記念館の入場割引券を配布しているが利用者数が伸びていない。市内の魅力をパンフレットを渡し口頭で説明しても伝わりにくいため、モニターなどで案内していきたい。	
		特色あるイベントの開催	テーマ性のあるイベントの開催							着手	栃木市が誇る江戸型人形山車や、スカイスポーツが盛んな渡良瀬遊水地ならではの熱気球、さらには、桜やあじさい、ハスなどの花まつり、高校生バンドの選手権を行う「なつこい」など、各種テーマに合わせたイベントを開催した。令和8年度の「あじさいまつり」では、本市出身で1月に「あじさい坂」でデビューした演歌歌手、平山花羽さんを招く予定。	・年間を通してまつりを大いにPRし盛り上げる事が大切。 ・定着してきているイベントほど、マンネリ化が否めない。伝統的なものは、文化的意味もあると思うが、賑わいを求めるものは、毎年特別感を出す工夫が必要。地域協力隊や高校生蔵部など新しい着眼点を募る事も持続性を持った特色を見出せるのでは。	
		既存イベントの見直し	複数イベントの合同開催等の検討							着手	なつこい実行委員会の主要メンバーである大平町商工会青年部が開催していた「とちぎ盆祭り」について、「なつこい」と同会場に近い時期に開催しており、流用できる備品があること、また、構成メンバーのノウハウが充実していることを鑑み、同時開催とした。「栃木市・渡良瀬パルーンレース」は早朝のレース後、日中の時間帯の集客が弱いことから、「渡良瀬遊水地フェスティバル」及び「オーガニックマルシェ」と同時開催とし、一日を通し賑わいを創出した。	・相乗効果が期待できるので良いと思います。効率的に取材もできます。 ・同じエリアで開催のイベントは、同時開催のほうが規模も大きくなってイベント感がより強いのでいい。	
			イベント主催者間の連携体制の構築							着手	「蔵の街サマーフェスタ」について、「鎮魂線香花火と灯ろう流し」を主催する栃木商工会議所や、「みつわキッチンカー通り」を主催するミツワ通り共栄会と調整し、同時開催イベントとして、周知の協力や、当日の運営における協力体制の構築を図り、実施した。「栃木市・渡良瀬パルーンレース」「渡良瀬遊水地フェスティバル」「オーガニックマルシェ」を同時開催するにあたり、合同で会議を開くなど、連携に努めた。	・サマーフェスタの百八灯と重なり見物客参加者等時間的に困っていました。 ・イベント主催者間の連携は良いと思います。さらに高校生蔵部などまちづくりに関わる学生など若い世代も巻き込み、若い視点からPRのアイデアなどを募ってはいかがでしょうか。	
			安全に考慮したイベントの開催	安心安全なイベントの開催							着手	急な体調不良者への対応として、市の保健師に協力いただき、特に夏のイベントにおける熱中症等に、速やかに対応できる環境を整えた。また、緊急時の連絡体制を整備し、けが人が出た際には即座に消防へ連絡し、救急車を手配し、対応した。熱中症対策として、令和7年度は「蔵の街サマーフェスタ」の開始時間を前年より2時間遅らせ16時とし、代わりに2日間開催とした。令和8年度は開催時期をずらし、9月開催の方向で検討している。	・8年度9月予定ありがたいです。 ・熱中症対策は非常に重要だと思います。 ・そもそも真夏の危険な時期にイベントをする必要があるのかを考え直してもいいのではないかと。蔵の街サマーフェスタは、11月に秋祭りもあるので、ずらしてわざわざ9月に開催するほどのイベントなのか疑問。それなら11月の秋祭りの準備に時間と人員、予算をかけたほうがいいのではないかと。